

発見・よろこび・出会い！ 本誌「ふれあいパーク」は、ふれあいパーク活動をしている皆さま方の紙面です！！

特集

2004「ふれあいパーク交流会」開催される

ふれあいパーク活動は、地域の皆さまが公園を「地域の庭」として、様々なアイデアにより有効活用を図っていかうとする活動です。各地域行政センターでは、活動に参加している方々が情報を交換し合う「ふれあいパーク交流会」が開催されました。

皆を悩ませる「犬の連れ込み、ホームレスの問題！」

初の試み「グループ討議」方式を採用

大田北センター
交流会

大田北地域行政センター管内のふれあいパーク交流会が、昨年10月21日（木）、同センター1階会議室にて開催されました。当日は活動団体の方々とのスタッフが加わり、4班に分かれたグループ討議方式が取り入れられました。意見交換では、同センターが事前実施したアンケートでの活動団体の皆さまのご協力もあり、活発な議論が行われました。

現在、活動する上で抱えている問題や対応策などをメンバーが議論。その内容が各グループ毎に取りまとめられ、発表されました。「花を植えて欲しい」などの公園施設に関する要望をはじめ、「公園内のホームレスの問題」「公園内に犬を連れてくる人がいる」など、公園利用者に関連する問題が挙げられ、幅広い内容に及びました。

こうした問題について、区側から現状報告が

根強い「花壇」VS活動への関心 NPO「大田・花とみどり」助言！

【大田西ふれあいパーク交流会】

昨年9月16日（木）嶺町集会所にて、大田西地域行政センター管内のふれあいパーク交流会が開催されました。当日は22団体、代表43名が参加されました。管内では、花壇活動を始めている活動団体が多数あり、花に対する質問が以前から寄せられていたため、NPO法人「大田・花とみどり」の「まちづくり」の方々にも出席をお願いしました。新たに花壇活動の要望を持つ団体からは、狭くて日当たりの悪い条件でも植えたい花や、参加メンバーの協力が得られない等の質問、既に経験している団体からは、秋・冬の長期に咲く花や丈夫で長持ちする花の種類、花苗の支給等の質問がありました。



公園清掃については、砂場の犬・ねこのフンの問題や、タバコのポイ捨てが、相変わらず多いことが問題として挙げられました。活動では、花壇の手入れをしているときに、公園利用者や近隣の方々と、新たな交流が生まれていることがうかがえました。

あり、犬・ねこのフンの問題については、「現時点では看板を設置することしかできない。見かけたら注意するが、飼い主に啓蒙活動してもなかなか効果が上がらない」、ホームレスの問題については、「追い払うだけでは解決にならない。最終的には自立を促す必要がある」とのコメントがありました。

活動されている方々の苦勞や他の公園の活動状況などが明らかにされた他、遊具の安全点検についての平和島公園管理事務所長による説明も行われました。



春！花づくりワンポイント 大田・花とみどりのまちづくり

■ユーリオブシステージー■

菊のような黄色い花を長期間咲かせます。ほとんど手入れをしなくても大きくなります。蒲田駅西口の花壇では、この仲間のマーガレットコスモスが1年中咲いています。



■サルビア■（右下・写真）

夏の花ですが、花が終わった後に切り戻しをすると長く楽しめます。ブルーサルビアは、思い切って根本まで切り戻しておく、冬越しできることもあります。



■ゼラニウム■

日当たりを好みますが、明るい日陰でも咲きます。条件が合うと一年中花を咲かせます。



■ノースポール■

花の種がこぼれて自然に発芽して、小さな苗を自分で作ります。植えてあった場所の周りを見て下さい。

■パンジー■（左・写真）

4月に入ると、茎が伸びてくるので根本から5センチほど残して切り戻し（切り詰め）ておくと、一回り小さな、かわいい花が咲いてきます。一度試してみてください。



「自分達で公園を見守りたい！」

活動内容報告、地域での管理の気運定着

大田南まちなみ整備課 【ふれあいパーク活動交流会】



昨年9月7日（火）に大田南地域行政センター1階会議室にて大田南まちなみ整備課管内の「ふれあいパーク活動」交流会が開催されました。当日は28団体の代表者が集まり、意見交換を行いました。また、多摩川緑地管理事務所長から「都市公園における遊具の安全確保に関する指針」についての説明、NPO法人「大田・花とみどりのまちづくり」の河村副理事長から同法人の活動内容についての紹介がされました。

各団体との意見交換では、事前のアンケートの中でいただいた「犬・ねこのフンの問題」「公園内の不法投棄の問題」「公園内のホームレス対策」「こみ箱、灰皿の設置の問題」等々の意見・要望について、池上公園管理事務所長から回答がありました。

活動内容の報告では、「自分たちの参加意識が高まり、公園を大事にするようになった。」「地域の者で見守っている」とする精神ができてきた良かった。」「など、地域の財産としての公園を地域で管理していきたいとする気運の定着が感じられる事例も挙げられました。

好評！花壇の彩りも鮮明！！ スライドを駆使しての活動紹介

【大田東まちなみ整備課ふれあいパーク活動団体交流会】



昨年10月6日（水）に萩中集会所にて大田東地域行政センターまちなみ整備課管内の「ふれあいパーク活動団体交流会」が開催されました。同センターまちなみ整備課では、実際の公園の状況を視覚で感じられればと、当日、スライド映写機（プロジェクター）を準備、会場では公園や活動の様子などを撮影した写真が映し出されながら、各団体の活動報告が行われました。

活動団体の皆さまとの協働を図るための新しい試みです。今回、花壇造りを共同で行った団体の話やスライドが好感を得たようです。同まちなみ整備課ではこのような結びつきを通じて実りある活動内容を働きかけて行きます。

みんな一緒に花壇づくり！ （西糀谷三丁目児童公園）



完成した手作りの花壇

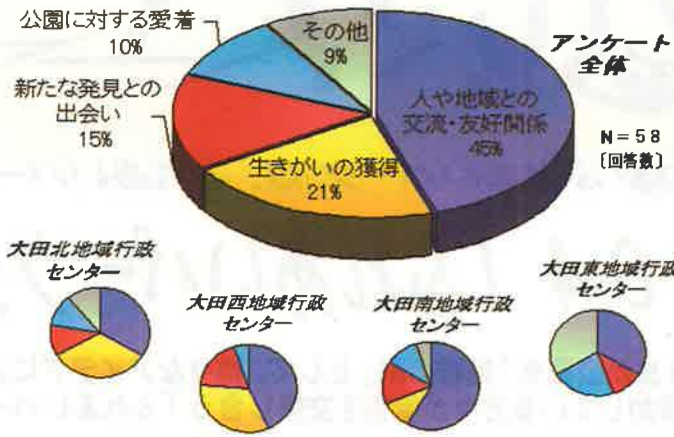
「人や地域との交流・友好関係」が活動して得たもののトップ!

「ふれあいパーク活動アンケート結果報告」

昨年、ふれあいパーク活動団体の皆様にご協力頂きましたアンケートの結果の一部を、紙面を借りてご紹介いたします。今回、皆さまから寄せられた回答数は、全部で273件に上りました。ありがとうございます。

「活動に携わって得たもの」(Q1)についての設問では、「地域の人達とのコミュニケーションが増えた」、「友好関係が深まった」など、人や地域との交流関係を挙げた方が最も多く、回答の半分弱を占めました。(左グラフ参照)。

ふれあいパーク活動に携わってみて何か得たものはありますか？



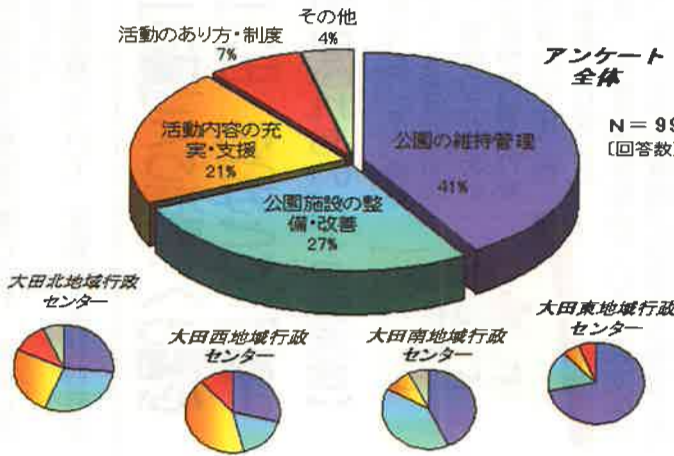
次いで、「利用者の笑顔を見て生きがいを感じた」、「きれいになった公園で心が洗われる喜びを得た」など生きがいの獲得に関する回答や、「植物を育てる楽しさを知った」、「地域の美化運動に関心をもちようになった」など新たな発見との出会いを挙げた回答が目立ちました。特に西や北の地域では生きがいの獲得を挙げた回答が多くを占めました。(右グラフ参照)。

「公園を将来どのようにしたいか」(Q5)との設問では、回答はさまざまでしたが、花や緑を増やすことを挙げた回答が特に目立ちました。「ふれあいパーク活動の不十分な部分や改善点など意見・要望」(Q4及びQ6)では、東や南の地域では公園の維持管理面や施設の整備改善を挙げた回答が多かったのに対し、西や北の地域では活動内容の充実や活動のあり方・制度に関する回答が多くなっています。(右グラフ参照)。

内容的には、公園の維持管理では樹木の剪定、ごみやペットの連れ込みなど利用マナーをめぐる看板類の設置やマナー啓発の徹底、ホームシ

ス対策などが挙げられ、施設の整備改善では、遊具の設置・補修や花壇の設置、散水施設の整備などが挙げられました。

ふれあいパーク活動の不十分な部分や改善点など意見・要望について



また、活動内容の充実・支援では、苗木等の斡旋・支給や活動に関する助言・情報提供などが挙げられ、活動のあり方・制度では、ふれあいパーク活動についての区民へのPR・情報公開や、手続きの簡略化などが挙げられました。

トータル解消事例紹介 ①

【砂場のねこのフン対策】

ネットと水撒きで解消!

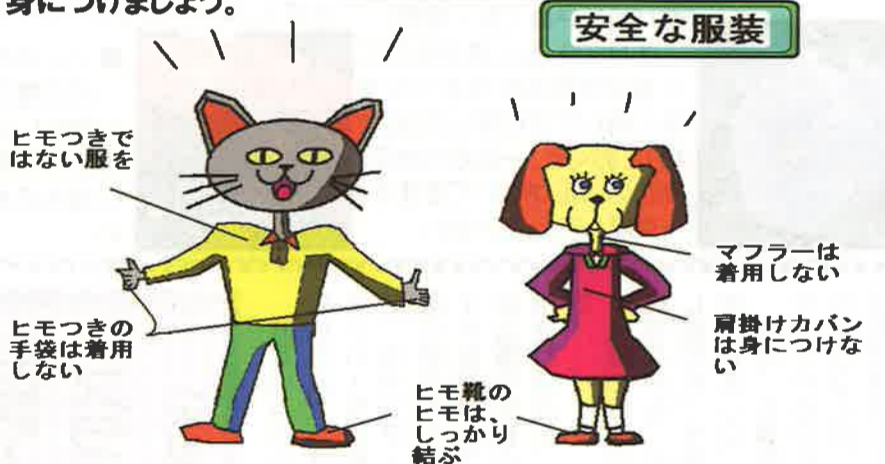
公園の砂場にねこのフン、本当に泣きたくなくてしまいます。さて、皆様はどうしますか。今回は、ある活動団体の方々の試みにより、その解決の糸口を見つけたケースの紹介です。

「砂場がねこのフンですごく汚れて子供が遊べない。何とかしなければと思うが、どうすれば良いのかわかりません。何か方法はないですか...?」

ふれあいパーク活動で公園の点検をしていた「グループA」の男性の方が、困り果てた様子

みんなニコニコ、公園を楽しく安全に! ①

- ◆ 締め付ける恐れがあるので、ヒモつきの衣服や手袋、肩掛けカバンを身につけるのはやめましょう。
- ◆ 足にあった靴をはき、ヒモ靴のヒモは、しっかり結びましょう。
- ◆ 引っかかったり、脱げやすい衣服ではなく、遊びやすい衣服を身につけましょう。



国土交通省「都市公園における遊具の安全確保に関する指針」1-2(2) 不適切な服装で遊ぶことは、除去すべき「人的ハザード」として規定。

小鳥も訪れる 藤棚のベンチ

下丸子余情公園/公園レクリエーション協会大田支部



公園内風景(上左写真)



貴重なオアシス、手入れするほど緑もまぶしい(下・写真)

下丸子余情公園は、遊具などの施設が一切ない草の広場を中心とした公園で、コナラやナカマド、モミジなどが植栽された、四季折々に様々な表情を見せてくれる憩いの空間となっています。公園には犬の散歩の途中に立ち寄る人や、藤棚の下でベンチで草をついばむ小鳥を見ながら話をする人など、静かに時間を過ごす人たちの集まる場所になっています。

NPO法人公園レクリエーション協会は、公園が安全で安心して利用できる施設となるよう各種の活動をしている仲間の集まりです。

私たちが具体的な活動としては、周辺の人が公園で気持ちよく過ごすことができるように、一週間に一回の公園と外周道路の清掃と簡単な草刈を行ってきました。これらの活動は簡単な作業ですが、ごみの散らかった公園の清掃が終わり、きれいになった藤棚の下で一休みをする気分はなんともいえません。また、公園で遊んでいる子供達が手伝ってくれたりするとさらに気持ちが晴々となります。しかしながら一方では、長期にわたって継続して公園の管理を続けることは、結構な負担になることも感じています。

私たちの会では、活動の一環として公園空間や施設診断をすることがあり、古くなった小さな公園が、近隣に住む人から迷惑な施設として敬遠されている実態を見ることがあります。安全で安心して使われる公園であり続けるためには、施設整備などのハードな部分をきちんと整備しておくことも大切ですが、ふれあいパーク活動のような、地域の人達の日常的なかわり、最も大切であると実感しています。

(公園レクリエーション協会大田支部長 新井 豊)



新井 豊さん

下の写真が「改良型ゴムホース補強ネット」砂場にかぶせても、めくれれない。



で区のH公園管理事務所を訪ねてきました。事務所のスタッフは、さっそくその男性に対策を紹介しました。

スタッフ:「ネットをかける方法があります。これは、利用者が利用時に開け閉めする方法です。しかし、風等でめくれたり、利用後のかけ忘れがあることから、点検(管理)してくれる人がいないと効果が期待できません。」

スタッフの話聞いた男性は少し考え込んでいましたが、間もなく切り出しました。

グループAの男性:「自分は公園の近くに住んでいて、毎日ではないが度々公園を点検しています。ネットをもらえれば、私がチェックします。」

スタッフ:「ネットはこちらで用意します。さっそく、やってみましょう。」

その後、その男性から再び連絡がきました。「ネットをかけたが、直ぐめくれています。そこで、子供たちにも安全なように、周囲にゴムホースを通して重石の代わりにしたところ、ネットがめくれなくなりました。」

「しかし、ネットの効果は完全ではなく、ネットの上からフンをするねこがいます。」

男性はさらに話を続けます。

「そこで、実際にねこを借りてきて、実験してみました。すると、ねこは綺麗すぎて脚が汚れるのを嫌うこと(特に灰を混ぜた水が脚につくことを嫌うこと)、柑橘類の臭いが苦手なこと、フン尿の臭いのする決まった場所です排泄することがわかりました。」

「こうしたねこの特性に注目して、グループAでは、夕方に砂場の周りに灰を混ぜた水を撒いて脚が濡れるようにしました。その結果、ねこが砂場に入らなくなったとのことでした。」

「ほっと一安心したところですが、今度は砂場の周辺でねこがフンをするようにもなりました。グループAでは、先の実験の結果から、ねこのトイレを公園に設置することをメンバーの間で話し合っているとのことでした。」

(実際の事例に基づき若干の脚色を施して紹介したものです。)